

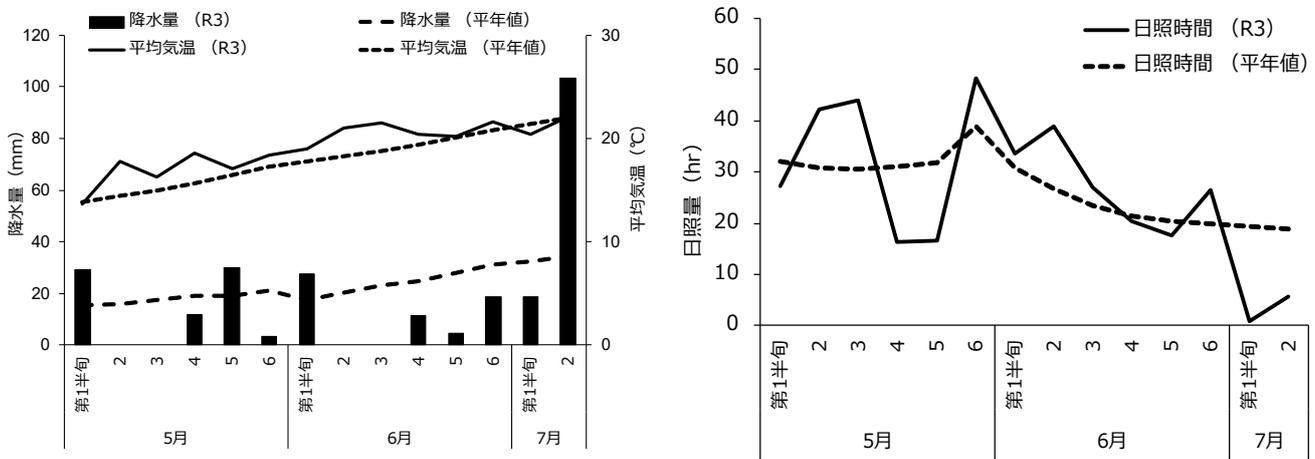
仙台稲作情報2021（第6号）

宮城県仙台農業改良普及センター TEL：022-275-8410 FAX：022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail：sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

栽培管理のポイント

- ▷ 幼穂形成期に入りました。追肥は稲の葉色や生育ステージを確認して適切に実施しましょう。
- ▷ 曇天が続いているので、ほ場を確認し、いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。
- ▷ 斑点米の発生防止のため、水田周辺の草刈りを適期に実施しましょう。

1 気象経過



2 管内の生育状況（7月9日の調査結果）

(1) 移植栽培（ひとめばれ）

- ・ 草丈は60.7cm（管内平均）で前年及び平年並，茎数は537本/m²（同）で前回調査より減少していることから最高分げつ期は過ぎたものと見られます。葉色（GM値）は38.4で、幼穂形成期の目安（38～40）を確保しています。
- ・ 1mm以上の幼穂長が確認され、「幼穂形成期」に入りました。生育は前年より進んでいます。

表1 7月9日の調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)			幼穂長 (mm)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめばれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区蒲生	5月15日	59.1	99	99	433	105	102	38.8	+0.8	-0.8	2.8	+1.9	+2.0
	北部平坦	大郷町鶉崎	5月12日	63.1	100	97	557	82	102	39.0	-2.2	-0.8	2.0	+2.0	+2.0
	西部丘陵	仙台市泉区福岡	5月13日	60.0	99	97	619	143	124	37.5	-4.0	-4.3	8.7	+4.7	+5.1
	管内平均			60.7	99	98	537	110	113	38.4	-1.8	-2.5	4.5	+2.8	+3.0
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区荒井	5月11日	62.3	87	96	546	97	109	39.8	+0.1	-1.1	3.6	+1.5	+2.5
だて正夢	北部平坦	大郷町土橋	5月14日	63.1	95	99	413	84	99	39.3	-1.9	-3.2	-	-	-
	仙台湾沿岸	仙台市若林区三本塚	5月18日	66.8	105	99	486	100	99	43.5	+3.1	-	-	-	-
	管内平均			65.0	100	99	449	92	99	41.4	+0.6	-3.2	-	-	-
つきあかり	北部平坦	大郷町山崎	5月14日	85.7	-	-	402	-	-	40.2	-	-	13.1	-	-
金のいぶき	仙台湾沿岸	仙台市若林区七郷	5月25日	51.5	-	-	442	-	-	43.3	-	-	-	-	-

※ 年比差は、平成30年から令和2年の3カ年平均値との比較

(2) 湛水直播栽培

草丈は46.3cm（前年比71%）、茎数は419本/m²（前年比70%）となっており、曇天の影響で生育が抑えられました。葉色（GM値）は42.9で、概ね目標としている葉色を確保しています。幼穂はまだ確認されませんでした。

表2 7月9日の調査結果

品種	地帯	場所	播種日	草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)		葉色値 (GM値)	
				本年	前年比 (%)	本年	前年比 (%)	本年	前年差
ササニシキ	北部平坦	大和町落合桧和田	5月3日	46.3	71	419	70	42.9	-2.3

※調査ほ場は令和2年度からの設置のため、平年値はありません。

3 出穂期の予測（古川農業試験場，7月8日現在）

北部平坦部における出穂期の予測は以下のとおりです。

（7月7日まで「各アメダス」データ実測値使用，7月8日以降は「各アメダス」平年値使用）

表3 出穂期の予測

出穂始期	出穂盛期	出穂終期
7/28	7/31	8/3

※出穂始期，出穂盛期，出穂終期は，それぞれ水稻作付見込面積の5%，50%，95%以上が出穂した日

予測時の条件

- ①移植時期「R 3年県平均値」
- ②植付時の葉数「R 3年県平均の3.0葉」
- ③北部平坦部の各アメダスデータ（大衡・古川・鹿島台・米山・築館）

4 本田管理

移植栽培

(1) 水管理

- ・出穂期までは飽水管理とし，土壤を酸化的に保ち根の活力を維持しましょう。
- ・幼穂形成期から減数分裂期に，日平均気温20℃以下が長期間続く場合や最低気温17℃以下の場合には障害不稔が発生する危険性が高くなりますので，できる限り深水管理を実施しましょう。
※幼穂形成期：水深5～10cm，減数分裂期：水深20cmが望ましい

(2) 追肥

- ・葉色は今後低下することが予想されます。ほ場をよく観察して適切な追肥を行い，**穂揃期の葉色維持**に努めましょう。
- ・ほ場により生育が異なるので，幼穂長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。
- ・基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合や復元田の場合は，倒伏が懸念されるため，原則として追肥は行いません。
- ・「だて正夢」は葉色が濃い品種です。周辺ほ場に比べ色が濃くなり，追肥を抑えられがちですが，穂揃期の葉色維持による登熟向上に向けて，適正な追肥を実施しましょう。
- ・「金のいぶき」の葉色は幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移しますので，追肥をする際は葉色に注意しましょう。

表4 生育ステージの目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20日
減数分裂期	30～120mm	-10～0cm	15～10日

表5 生育ステージにおける葉色の目安 ※葉緑素計（SPAD値）

品種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	38～40	35～37
ササニシキ	34～36	32～34
だて正夢	40～42	37～39
金のいぶき	33～35	30～32
つや姫	35～37	31～33
まなむすめ	35～37	36～38

表6 追肥の目安

品 種	窒素施用量（成分量/10a）	
	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ・金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	—	1.0～1.5 kg
つや姫・まなむすめ	2.0 k g	—
だて正夢	— (茎数が少ない場合は1kg)	2 kg (幼穂形成期に1kg追肥した場合は1kg)

(3) 病害虫防除

①いもち病

- ・曇りや雨が多く、日照時間が少ない日が続いており、7月7日から11日にかけて県内全域に葉いもちの「感染好適条件」が出現しています。
- ・7月9日に病害虫防除所からいもち病に係る注意報第1号が発表されています。
- ・上位葉での葉いもちの発生は、穂いもちの重要な伝染源になるので、ほ場をよく観察し、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・特に、窒素過剰により稲が軟弱徒長気味で葉色が濃いほ場は、早期発見に努めましょう。
- ・また、追肥後は一時的に稲体窒素濃度が高くなり、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので発生に注意しましょう。
- ・穂いもちの予防剤は、出穂30～5日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき適期に散布しましょう。



進行型病斑

【参考】BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、病害虫防除所のサイトをご覧ください。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

②紋枯病

- ・高温で降雨日数が多いと株間の湿度が高まり、幼穂形成期頃から発生が目立つようになります。出穂期前からの発病は被害が大きくなるので、発生に注意しましょう。
- ・病害虫防除所による発生予報4号では、発生量が「やや多」の予報が発表されています。
- ・前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがあります。穂ばらみ期の水面施用剤、出穂期頃の茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤（液剤、水和剤、粉剤）がよく付着するよう十分な葉量で散布しましょう。



病斑

③稲こうじ病

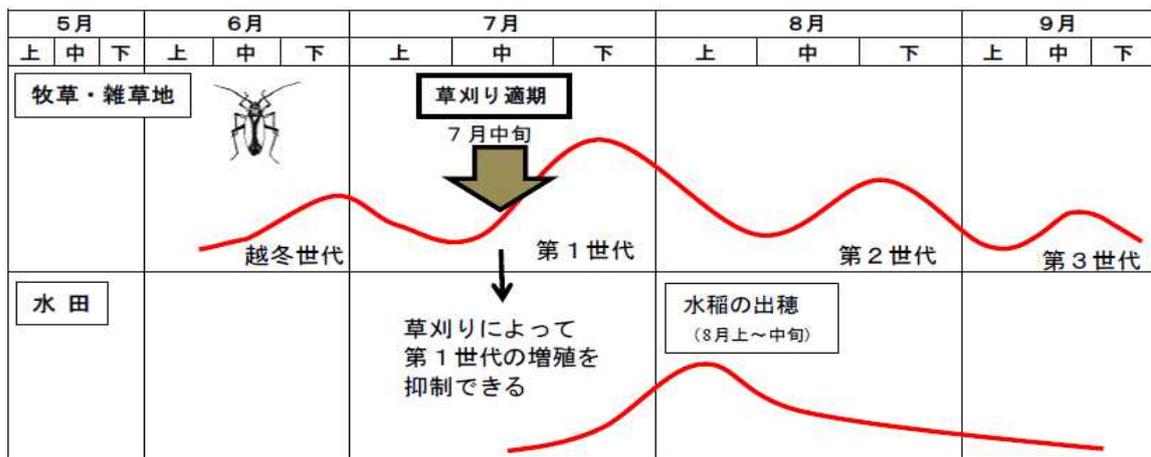
- ・穂ばらみ期に低温で降雨日数が多い条件下で発生しやすくなります。
- ・ほ場に残った菌核などが伝染源となるため、前年に多発したほ場では注意が必要です。
- ・銅剤は予防効果が高く、出穂20～10日前が散布適期です。



発病籾

④斑点米カメムシ類

- ・水田周辺にある牧草地や雑草地では、斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、7月中旬までに草刈りを行いましょう。特に、本年は第1世代の成虫発生盛期がやや早くなる（7月11～15日）と予想されていますので、刈り遅れとならないように注意しましょう。
- ・水稻の出穂前後の畦畔の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻が出穂する10日前までに行います。出穂期の予測を参考に作業の計画を立てましょう。



⑤コバネイナゴ

- ・病害虫防除所による6月25日発行の発生予察情報において発生量は「やや多」と予報されています。発生量に注意しましょう。

湛水直播栽培

(1) 中干し

倒伏防止のため、田面に亀裂が入る程度に少し強めの中干しを実施し、土壌の硬度を高めましょう。中干し後の水管理は、1～3日程度走り水をしてから間断かんがいを実施しましょう。

(2) いもち病

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、全般に葉色が高く推移しやすいことから、葉いもちが発生しやすい傾向があります。ほ場を見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。

(3) イネツトムシ（イチモンジセセリ）

幼虫によるツト（苞）が散見されます。被害が大きく防除の対象となるのは第2世代幼虫期で、通常は8月上旬頃から加害が始まります。特に葉色が濃い部分に産卵されることが多く、直播栽培で問題となることがありますので発生に注意し、防除が遅れないようにしましょう。

(4) 斑点米カメムシ類

移植栽培に比べて出穂期が遅れることから、散布適期を把握し実施しましょう。詳細は移植栽培の(3)病害虫防除④斑点米カメムシ類の項目を参考にしてください。

5 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（7/8仙台管区气象台発表）

予報のポイント

- 期間の前半を中心に暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

■農薬危害防止運動実施中（令和3年6月1日から令和3年8月31日まで）

- ・ラベルに記載されている適用作物，使用時期，使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。
- ・最新の農薬登録情報は，農林水産省消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

次回の稲作情報第7号は、7月20日に実施する生育調査の結果をもとに7月21日頃の発行となります。